

X-TEA Modeler コンテンツファイル XML様式V1.2 仕様書

XML属性:xml version="1.0" encoding="UTF-8"

要素	属性	説明(文中の<...>はコンテンツファイル上のXML要素を表す)
System		すべての定義を包含するルート要素で、xeadファイル1個につき1個だけ存在する
	Name	システムの名称
	Descriptions	システムの詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	Version	システム定義の改版番号
	RefFiles	このファイルを外部参照しているファイル。複数の場合はセミコロンで区切る
	DocFileFormat	外部資料の標準様式。複数の場合はセミコロンで区切る
	DDLCommentMark	DDL上でコメントを示すマーク
	DDLSectionMark	DDLの区切りを示すマーク
	DDLAdditionalParms	DDLの追加パラメータ
	DDLCommentWithAlias	DDL上でコメントをフィールド名とするかどうかのオプション。"true"または"false"
	DDLIgnoreFK	DDLに参照制約を組み込むかどうかのオプション。"true"または"false"
	FormatVersion	コンテンツファイルXML様式のバージョン。本仕様書に従うものであれば"1.2"
Department		<Role>の所属部門として利用される。少なくとも1個は存在しなければならない
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
TaskType	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
		<Task>の業務タイプとして利用される。少なくとも1個は存在しなければならない
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
TableType	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
		<Table>の分類として利用される。少なくとも1個は存在しなければならない
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
Name	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
		<TableField>の分類として利用される。少なくとも1個は存在しなければならない
ID	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	BasicType	基本データ型。以下のいずれか: SignedNumber, UnsignedNumber, String, Date, Boolean, Object
	Length	桁数。基本データ型がBooleanの場合は常に"1"
Decimal	Decimal	少数桁数。BasicTypeがNumber系の場合にのみ有効
	SQLExpression	SQLにおけるデータ型表現で、CREATE文を出力する際に用いられる。ブランク可
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
		<Function>の分類として利用される。少なくとも1個は存在しなければならない
FunctionType	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
Terms		用語とルール
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Header	用語やルールの見出し
	HtmlFileName	詳細説明の代わりに表示させたいHTMLファイルの名前
Descriptions	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序番号。ブランク可。
MaintenanceLog		設計情報の保守履歴
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Header	履歴のラベル。変更前のバージョン番号等を指定する
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
SortKey	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序番号。ブランク可。日時(yyyymmdd_hhmmss)等を指定する
		業務フロー用サブジェクトエリアの定義
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
BoundaryPosition	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	BoundaryPosition	ピクセル値で指定される「システム境界」のサイズ。"900,500"のように幅と高さをコンマで区切って指定する
	BoundarySize	ピクセル値で指定される「システム境界」の左上位置。"50,60"のようにパネル左上端からの幅と高さをコンマで区切って指定する
	BoundarySetting	キャプションの位置。"0"=非表示、"1"=左上、"2"=右上、"3"=左下、"4"=右下、"H"=システム境界非表示。ブランクならば"3"とみなされる
SortKey	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
		業務フロー上の「ノード」
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称。Type="Process"の場合、関連する<Task>のNameが利用されるため、この項目は無視される
NameExt	NameExt	名称ラベルの2行目。Type="Process"の場合は無視される
	Position	ピクセル値で指定されるノードの左上位置。"50,60"のようにパネル左上端からの幅と高さをコンマで区切って指定する
	SlideNumber	スライドショーでの表示順序。"01"~"30"のいずれか
	TaskID	Type="Process"の場合にのみ有効。既存の<Task>のIDが指定される
Type	Type	ノードのタイプ。"Process"、"Folder"等、10種のいずれか(注1)
	EventPos	タイプが"Process"の場合のみ有効で、イベントの表示位置(左右)。「L」または「R」で、ブランクなら「L」とみなされる。
	Descriptions	説明。Type="Process"の場合、関連する<Task>のDescriptionsが利用されるため、この項目は無視される
		業務フロー上の「データフロー」
ID	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称。最長全角7桁程度までが妥当。それより長い部分については次項目を利用すること
	NameExt	拡張名称値。最長全角7桁程度までが妥当
	ImageType	データフローに添えられるアイコンの番号。"1"~"20"のいずれか(注2)
NodeID1	NodeID1	フローのつながり先である"Process"側の<DataflowNode>のID。当<SubjectArea>内で定義済みであること
	NodeID2	フローのつながり先である"非Process"側の<DataflowNode>のID。当<SubjectArea>内で定義済みであること
	ShowArrow1	フローの"Process"側の矢印を表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値

	ShowArrow2	フローの“非Process”側の矢印を表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値
	TerminalPosIndex1	フローの“Process”側の起点位置を示す。“0”～“9”のいずれかで、ノードのほぼ12時位置から右回りでずれてゆく
	TerminalPosIndex2	フローの“非Process”側の起点位置を示す。“0”～“9”のいずれかで、ノードのほぼ12時位置から右回りでずれてゆく
	SlideNumber	スライドショーでの表示順序。“01”～“30”のいずれか
Role	「業務担当者」、または「業務上の役割」の定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	DepartmentID	所属部門。既存の<Department>のIDが指定される
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
Task	個々の業務の定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Event	イベント。この業務が開始されるべき「状況」のこと
	TaskTypeID	業務タイプ。既存の<TaskType>のIDが指定される
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	RoleID	この業務を担当する職種。既存の<Role>のIDが指定される
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
TaskAction	業務を構成する個々のアクション	
	ExecuteIf	このアクションが実行されるべき前提条件
	Label	アクションの表現。「○を○する」という形式で統一するのが望ましい
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	IndentLevel	アクションツリー上でのインデントレベル
	SortKey	アクションツリー上での並び順。数値のみ
	個々のアクションを遂行するために必要な機能定義または機能の入出力定義	
	FunctionID	既存の<Function>のIDが指定される
	IOID	既存の入出力定義(<IOTable>,<IOPanel>,<IOSpool>,<IOWebPage>)のID。機能定義ならば“0”
	IOIDSeq	TaskActionに同一の入出力定義を含む場合、登録順に正数が設定される。重複しないならブランク
	Operations	このアクションにおけるこの機能の操作方法。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	SortKey	このアクション内での並び順。数値のみ
Subsystem	サブシステム定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	DatamodelDescription	データモデルの説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
SubsystemTable	データモデル上でのテーブルの表示属性	
	TableID	既存の<Table>のIDが指定される
	BoxPosition	ピクセル値で指定されるデータモデル上での位置。“50.60”のようにパネル左上端からの幅と高さをコマで区切って指定する
	ExtDivLoc	ピクセル値で指定される、データモデル上でのボックス幅。ExternalDividerLocationの略
	IntDivLoc	ピクセル値で指定される、データモデル上での識別子カラムの幅。InternalDividerLocationの略
	ShowOnModel	データモデル上でこのテーブルを表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値
	ShowInstance	データモデル上でこのテーブルの値例を表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値(注8)
	Instance	テーブルの値例。ブランク可。改行文字は“#EOL#”(注8)
	このキーを構成するフィールド	
	Text	テーブルの値例。改行文字は“#EOL#”
	SortKey	スライドショー上での表示順序。0から30までの値をとる
SubsystemRelationship	データモデル上でのテーブル関連線の表示属性	
	RelationshipID	既存の<Relationship>のIDが指定される
	TerminalIndex1	1側の末端部分の位置。“00”～“40”のいずれかの値(注3)
	TerminalIndex2	2側の末端部分の位置。“00”～“40”のいずれかの値(注3)
	ShowOnModel	データモデル上でこの関連線を表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値
Table	テーブル定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	SynchFile	定義の同期元ファイル(*.xead)の名前。ブランク可
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	TableTypeID	テーブルタイプ。既存の<TableType>のIDが指定される
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Alias	DDL上のテーブル名。ブランクならばSortKeyが適用される
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
TableField	このテーブルに含まれるフィールドの定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Alias	可視的なフィールドID。ブランク可
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	AttributeType	フィールドの属性区分。NATIVE, DERIVABLE, INHERITED のいずれかの値
	DataTypeID	フィールドのデータタイプ。既存の<DataType>のIDが指定される
	ShowOnModel	データモデル上でこのフィールドを表示するかどうかの指定。true,またはfalseのいずれかの値
	NotNull	Nullを許さないならtrue、許すならfalse。CREATE文を出力する際に用いられる
	NoUpdate	値の更新を許さないならtrue、許すならfalse。PKIに含まれる場合には無条件にtrueとみなされる
	Default	省略値。CREATE文を出力する際に用いられる
	SortKey	テーブル内での並び順。数値のみ
TableKey	このテーブルに含まれるキーの定義。1テーブルに1個は必ず存在しなければならない	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。このテーブルのキー定義内で重複しない数値であること
	Type	キーのタイプ。1番目のキーでは必ず“PK”であること。2番目以降は“SK”か“FK”か“XK”
	SortKey	テーブル内での並び順。1番目のキー(PK)の場合は“000”として先頭に並ぶようにすること
	このキーを構成するフィールド	
	FieldID	このテーブル内に定義済みの<TableField>のIDが指定される
	AscDesc	昇順であればA、降順であればD。キータイプが“XK”の場合にのみ有効
	SortKey	このキー定義におけるこのフィールドの並び順。数値のみ

Relationship	テーブル関連定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Type	関連タイプ。“FAMILY”、“REFFER”、“SUBTYPE”のいずれか
	Table1ID	1側のテーブル。Type=“FAMILY”ならば親、“REFFER”ならば参照先の<Table>のIDが指定される
	Table2ID	2側のテーブル。Type=“FAMILY”ならば子、“REFFER”ならば参照元の<Table>のIDが指定される
	TableKey1ID	1側のテーブルキー。指定されたテーブルの<TableKey>のIDが指定される(注4)
	TableKey2ID	2側のテーブルキー。指定されたテーブルの<TableKey>のIDが指定される(注4)
	ExistWhen1	1側のテーブルに、対応するインスタンスが存在するための条件。ブランク可
Function	機能定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Name	名称
	Summary	改行を含まない概要説明。ブランク可。機能一覧上の説明として使われる
	Parameters	引数。ブランク可
	Return	返り値。ブランク可
	DocFile	関連する設計資料のファイル名。複数指定の場合には;で区切る。コンテンツファイルの置場を<CURRENT>で表現できる。
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
FunctionUsedByThis	FunctionTypeID	機能のタイプを示す。既存の<FunctionType>のIDが指定される
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
	この機能から起動される機能	
	FunctionID	既存の<Function>のIDが指定される
	LaunchEvent	起動のタイミングや起動方法についての説明。ブランク可
	SortKey	機能内での並び順。数値のみ
	パネル入出力定義	
IOPanel	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。この機能定義に含まれるIOPanel,IOWebPage,IOSpool,IOTableを含めて重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	ImageText	パネルイメージのテキスト表現。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	Background	パネルの背景色(注5)
	Size	パネルのサイズ。“100,30”のように桁数と行数をコンマで区切って指定する
	FontSize	文字サイズ。“10”、“12”、“14”のいずれか
	SortKey	機能内での並び順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
IOPanelStyle	パネルイメージテキストの装飾情報	
	Value	装飾情報。“15,20,BG,WHITE”のように、開始桁、終了桁、装飾タイプ(注6)、色(注5)をコンマで区切って指定する。
	パネルに含まれる入出力項目	
	Name	名称
	Label	項目の見出し。パネル上のラベル表現。ブランク可
	IOType	入出力区分。“INPUT”、“REQUIRED”、“OUTPUT”、“CONTROL”のいずれか(注7)
	Descriptions	項目の扱いに関する説明。ブランク可
	SortKey	項目説明一覧中の並び順序。数値のみ
IOWebPage	WEBページ入出力定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。この機能定義に含まれるIOPanel,IOWebPage,IOSpool,IOTableを含めて重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	FileName	HTMLファイルの名前。xeadファイルの置かれたフォルダを起点としたパス指定で help/Index.html などと指定される
	SortKey	機能内での並び順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
	ページに含まれる入出力項目	
	Name	名称
IOWebPageField	Label	項目の見出し。ページ上のラベル表現。ブランク可
	IOType	入出力区分。“INPUT”、“REQUIRED”、“OUTPUT”、“CONTROL”のいずれか(注7)
	Descriptions	項目の扱いに関する説明。ブランク可
	SortKey	項目説明一覧中の並び順序。数値のみ
IOSpool	印刷出力定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。この機能定義に含まれるIOPanel,IOWebPage,IOSpool,IOTableを含めて重複しない数値であること
	Name	名称
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	ImageText	印刷イメージのテキスト表現。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	Background	印刷ページの背景色(注5)
	Size	印刷ページのサイズ。“100,30”のように桁数と行数をコンマで区切って指定する
	FontSize	文字サイズ。“10”、“12”、“14”のいずれか
IOSpoolStyle	SortKey	機能内での並び順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
	印刷イメージテキストの装飾情報	
	Value	装飾情報。“15,20,BG,WHITE”のように、開始桁、終了桁、装飾タイプ(注6)、色(注5)をコンマで区切って指定する
	印刷ページに含まれる入出力項目	
	Name	名称
	Label	項目の見出し。印刷イメージ上のラベル表現。ブランク可
	Descriptions	項目の扱いに関する説明。ブランク可
	SortKey	項目説明一覧中の並び順序。数値のみ
IOTable	テーブル入出力定義	
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。この機能定義に含まれるIOPanel,IOWebPage,IOSpool,IOTableを含めて重複しない数値であること
	Position	機能定義におけるこのテーブルの位置づけ。PRIMARY,HEADER,DETAIL,JOIN,ブランク,のいずれか
	NameExtension	入出力定義の名称としてテーブル名の後に添える名称。ブランク可
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は“#EOL#”
	TableID	既存の<Table>のIDが指定される
	OpC	追加操作がなされるならば“+”、そうでなければブランク
	OpR	読み込み操作がなされるならば“+”、そうでなければブランク
IOTableField	OpU	更新操作がなされるならば“+”、そうでなければブランク
	OpD	削除操作がなされるならば“+”、そうでなければブランク
	SortKey	機能内での並び順序。ブランク可。文字も指定可能で、可視的な識別子項目でもある
	フィールドに対する操作	

				FieldID	指定されたテーブルの<TableField>のIDが指定される
				Descriptions	フィールドの扱いに関する説明。ブランク可
<p>注1. 以下の12種: Process(業務プロセス), Folder(資料箱), Subject(内部主体、外部主体), Store1(棚), Store2(床置き場), Casher(キャッシャ), Sofa(長椅子), Tray(トレイ), Safe(金庫), Ledger(台帳), Drum(データベース), Basket(大きい箱)</p> <p>注2. 1(電気信号), 2(単伝票), 3(複伝票), 4(箱), 5(箱+単伝票), 6(箱+複伝票), 7(平箱), 8(平箱+単伝票), 9(平箱+複伝票), 10(角材), 11(角材+単伝票), 12(角材+複伝票), 13(円柱), 14(円柱+単伝票), 15(円柱+複伝票), 16(人物), 17(人物+単伝票), 18(人物+複伝票), 19(人物+平箱), 20(人物+平箱+単伝票)</p> <p>注3. テーブル名を囲む四角形の下辺右端が“00”、増分する度にそこから左へ移動して下辺左端で“17”、1増分してそこから左辺の下端へ移動して、増分のたびに上へ移動して上端で“22”、さらに1増分して上辺の左端に移って、そこから増分する度に右へ移動して上辺の右端で“40”</p> <p>注4. 組み合わせのキー構成に制約がある点に注意。FAMILY関係においては、1側のキーのフィールドのデータタイプ構成を2側のキーが含んでいて、かつ、両者のキーがPKまたはSKでなければならない。REFERER関係においては、両者のキーのフィールドのデータタイプ構成が一致して、かつ、1側のキーがPKまたはSK、2側がFKでなければならない。SUBTYPE関係においては、両者のキーのフィールドのデータタイプ構成が一致して、かつ両者のキーがPKまたはSKでなければならない。XKのタイプはいかなる関係も構成しない。</p> <p>注5. BLACK, WHITE, GRAY, CONTROL(通常のパネル背景色), RED, PINK, ORANGE, YELLOW, GREEN, BLUE, CYAN, MAGENDA</p> <p>注6. “BG(Background,文字背景色)”, “FG(Foreground,文字色)”, “UL(Underline,下線)” のいずれか。ただし、ULの場合は色指定なし</p> <p>注7. “INPUT”=任意入力項目, “REQUIRED”=必須入力項目, “OUTPUT”=表示専用項目, “CONTROL”=GUI部品</p> <p>注8. 下位要素であるInstanceに移行される。値が指定されている場合はInstance要素の1件目として解釈される。</p>					